

	機会	脅威
Lv.1:豊浦町第5次総合計画に示された7つの潮流	Lv.2:事務局想定(一部豊浦町第5次総合計画よりキーワード抽出)	
	機会	脅威
グローバル化の進展	海外からの各種需要拡大、海外観光客の増加(東アジア⇒東南アジア)、新千歳空港の海外枠拡大	
環境問題への取組み	再生可能エネルギーへの需要拡大、送配電分離への転換	温暖化による第1次産業における収穫物の変化、石油燃料価格の変動、電力不足への不安、エネルギー危機の懸念
求められる食の安全と安心	国内産食品のニーズ向上、北海道ブランド、地産地消の需要拡大	TPP
少子高齢化社会の到来	大都市圏から地方部への回帰、高齢者の健康増進(社会残留)、東海大学札幌校の動向、高齢者支援のニーズ拡大	出生率減少、大都市圏への人口流入、生産年齢人口の減少、買物難民の増加、社会保障制度への不安
価値観やライフスタイルの変化	雇用形態の多様化、女性の社会進出の促進、子育て支援のニーズ拡大、ニッチニーズ(生活、嗜好)の拡大、エコライフ、環境・資源配慮型消費への転換、高付加価値商品の需要拡大、生活様式の欧米化、ツアー観光から個人観光(FIT化)への移行、体験型旅行の需要拡大	晩婚化、晩産化
高度情報化と技術革新の進展	ICT・テレワークの推進、交通インフラの整備、SNS等を用いた情報伝達スピードの向上、各種手続き等の電子化、トレーサビリティの実用化、	
社会経済システムの変化	ネット販売の需要拡大、海外資本の投資拡大、公共サービスの民営化、PFI・PPP、北海道新幹線開業、道央自動車道延伸、広域連携による行政運営の拡大	景気変動、円高・円安、製造企業の空洞化、国から地方への交付金の減少、消費税増税、地方創生に伴う自治体間競争の激化、ウィンザーホテル洞爺湖の動向、大規模災害の発生、国内市場の縮小、企業体力の低下

強み

- 住環境として恵まれている
 - ・ 人間関係が良い
 - ・ 移住向け住宅がある
 - ・ 道内の中でも「住みたいエリア」である
 - ・ 自然環境が良い
 - ・ 温暖な気候である
 - ・ 災害に強い
- 立地条件が良い
 - ・ 大中都市に近く、自動車交通の便が良い
 - ・ 歴史的な地理的環境である
- 魅力的な観光資源がある
 - ・ キャンプ場の評価が高い
 - ・ 景色が良い
 - ・ アクティブスポーツができる
 - ・ 鉄道に関する観光資源がある
 - ・ 町外と連携した観光圏がある
 - ・ 評価の高い宿泊施設が近隣にある
- 医療・福祉等、行政対応が良い
 - ・ 行政の対応が良い
 - ・ 福祉が充実している
 - ・ 医療が充実している
 - ・ 公共施設が充実している
 - ・ 通学費助成がある
- 一次産業・雇用が安定している
- 一次産業を活かしている
 - ・ 一次産業を活かした食がある
 - ・ 一次産業を活かしたイベントがある

【その他事務局想定】

- シュタイナー学園
- 東海大学との連携
- バイオマス(農漁業から発生する廃棄物利用)
- ホタテ収穫期の雇用
- ウィンザーホテル洞爺湖の社員寮
- 天然豊浦温泉「しおさい」
- 豊浦町噴火湾展望公園
- インディアン水車公園
- 道の駅とようら
- 豊浦町自立計画
- 人口当たりの保育所・学校数が多い
- 人口当たりの老人福祉施設数が多い
- 犯罪率が低い

【アンケートから得られた「強み」】

- 住み良さ
 - ・ 約80%が住み良いと思っている
 - ・ 自然環境の良さが住み良さにつながっている
 - ・ 約70%が住み続けたいと思っている
- 漁業基盤への行政対応が良い
- 医療・福祉体制への行政対応が良い

弱み

- 売り方・アピールの工夫が必要
- ブランド化しきれていない
 - ・ 一次産業ブランドを活かせていない
 - ・ 一次産業における量より質の強化が必要
 - ・ 生産量・技術とニーズのマッチングが出来ていない・難しい
- 自然環境の良さが活かせていない
 - ・ 自然環境・景観の良さを活用できていない
 - ・ 自然環境の良さに対して、ごみなどが目立つ
- 観光の受入基盤が整っていない
 - ・ 観光資源としての一次産業の活用ができていない
 - ・ 観光のストーリーが出来ていない
 - ・ 観光受入可能性が少ない
- 身近な買い物が不便
- まちづくりが後発的
- 住民活動が受動的
 - ・ 人のつながりが希薄になってきている
 - ・ 住民の活動が受動的である
- 生活環境が整っていない
 - ・ 民間業者が育っていない
 - ・ 民間不動産が少ない
 - ・ 働く場が少ない
 - ・ 子育て環境の選択肢が少ない

【アンケートから得られた「弱み」】

- 希望する就業先の無さ、買物の不便さ、交通の便の悪さ、老後の不安が転出希望の要因となりうる
- 商業、観光、産業振興のための企業誘致への行政対応が不十分
- 平均希望子ども数2.0人に対し、現状の平均は1.0人である
- 子ども数の希望を叶えるには、経済面、子どもの医療面、職場環境に不安がある
- 未就業者の就業希望上位は、介護・医療関係である
- 高校生の就業希望上位は、サービス業や専門的な仕事である
- 高校生の進学希望率が高く、進学時に町外に転出してしまう
- 高校生の多くが、将来にわたって豊浦町に住むつもりはないと思っている

【リスクの高い事象】

- ①「**実働可能な生産年齢人口の減少**」に伴う ⇒**生産活力の向上**
 - 一次産業：後継者や人手不足により、耕作放棄地が増加してしまう。(水産商工振興課・農政振興課)
 - 二次産業：生産力が確保できず、工場や事業所の廃止などが起こる。(水産商工振興課)
 - 全般：業種別団体の縮小、解散により地域の産業基盤の衰退が生じる。(水産商工振興課)
 - 求人・労働力：求人と求職のニーズが一致せず、人手不足になる。(水産商工振興課)
- ②「**総人口の減少**」に伴う ⇒**自立可能な人口規模・構成**
 - 三次産業：小売店の撤退などにより生活の利便性が低下してしまう。(水産商工振興課)
 - 三次産業：身近な小売店舗の廃業により日々の生活が困難になってしまう。(水産商工振興課)
 - 税財政：個人町民税の大幅な減少により自律できる財源が維持できない。(総務課)
 - 公共施設：利用者や財源、パートナーの減少により公共施設の快適な環境が維持できない。(建設課)
- ③「**高齢者の増加**」「**高齢化率の上昇**」に伴う ⇒**元気な高齢者の増加**
 - 地域防災：地域の防災組織が機能しなくなる。(総務課)
 - 自治活動：身近な自治活動を維持できなくなる。(総務課)
 - 高齢者福祉：きめ細かな高齢者向けの福祉サービスを提供できなくなる。(やまびこ)
 - 保険事業：個人あたりの社会保障費が増加してしまう。(やまびこ)
 - 生涯スポーツ：スポーツ活動に取組む組織・団体の維持が困難になり、地域でスポーツ活動の取組みがなくなる。(生涯学習課)
 - 雇用環境：介護などにより退職者や離職者が増加してしまう。(水産商工振興課)
- ④「**少子化、子育て世代の転出**」に伴う ⇒**出産・子育て環境の充実**
 - 地域教育：地域における子ども達の育成環境がなくなってしまう。(生涯学習課)
 - 児童・青少年：青少年活動団体やスポーツ団体の維持が困難になり、児童・青少年の学校外活動がなくなる。(生涯学習課)

強み	
<p>A) 住環境として恵まれている</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人間関係が良い ● 移住向け住宅がある ● 道内の中でも「住みたいエリア」である ● 自然環境が良い ● 温暖な気候である ● 災害に強い <p>B) 立地条件が良い</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大中都市に近く、自動車交通の便が良い ● 歴史的な地理的環境である <p>C) 魅力的な観光資源がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ● キャンプ場の評価が高い ● 景色が良い ● アクティブスポーツができる ● 鉄道に関する観光資源がある ● 町外と連携した観光圏がある ● 評価の高い宿泊施設が近隣にある <p>D) 一次産業・雇用が安定している</p> <p>E) 一次産業を活かしている</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 一次産業を活かした食がある ● 一次産業を活かしたイベントがある 	<p>F) 医療・福祉等、行政対応が良い</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 行政の対応が良い ● 福祉が充実している ● 医療が充実している ● 公共施設が充実している ● 通学費助成がある <p>【その他事務局想定】</p> <ol style="list-style-type: none"> シュタイナー学園 東海大学との連携 バイオマス(農漁業から発生する廃棄物利用) ホタテ収穫期の雇用 ウインザーホテル洞爺湖の社員寮 天然豊浦温泉「しおさい」 豊浦町噴火湾展望公園 インディアン水車公園 道の駅ようら 豊浦町自立計画 人口当たりの保育所・学校数が多い 人口当たりの老人福祉施設数が多い 犯罪率が低い <p>【アンケートから得られた「強み」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 住み良さ <ul style="list-style-type: none"> ● 約80%が住み良いと思っている ● 自然環境の良さが住み良さにつながっている ● 約70%が住み続けたいと思っている ● 漁業基盤への行政対応が良い ● 医療・福祉体制への行政対応が良い

弱み	
<p>A) 売り方・アピールの工夫が必要</p> <p>B) ブランド化しきれていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生産量・技術とニーズのマッチングが出来ていない・難しい ● 一次産業ブランドを活かせていない ● 一次産業における量より質の強化が必要 <p>C) 自然環境の良さが活かせていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然環境・景観の良さを活用できていない ● 自然環境の良さに対して、ごみなどが目立つ <p>D) 観光の受入基盤が整っていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 観光資源としての一次産業の活用ができていない ● 観光のストーリーが出来ていない ● 観光受入可能量が少ない <p>E) 身近な買い物が不便</p> <p>F) まちづくりが後発的</p> <p>G) 住民活動が受動的</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人のつながりが希薄になってきている ● 住民の活動が受動的である 	<p>I) 生活環境が整っていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 民間業者が育っていない ● 民間不動産が少ない ● 働く場が少ない ● 子育て環境の選択肢が少ない <p>【その他事務局想定】</p> <ol style="list-style-type: none"> 高齢者率が高い 出生より死亡が多い(自然減) 20～30歳代の転出が多い 製造品出荷額・商品販売額が少ない 若者の完全失業率が高い 婚姻率が低い 平地が少ない(市街地部) 学校の統廃合に伴う未利用施設 高校がない 礼文華・大岸地区、下町/上町等、町内地区ごとの状況差 人口当たりの製造品出荷額が少ない 人口当たりの商品販売額が少ない 婚姻率が低い <p>【アンケートから得られた「弱み」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 希望する就業先の無さが転出希望の要因となりうる <ul style="list-style-type: none"> ● 未就業者の就業希望上位は、介護・医療関係である ● 高校生の就業希望上位は、サービス業や専門的な仕事である ● 買物の不便さ、交通の便の悪さが転出希望の要因となりうる ● 老後の不安が転出希望の要因となりうる ● 商業、観光、産業振興のための企業誘致への行政対応が不十分 ● 子ども数の希望を叶えるには、経済面、子どもの医療面、職場環境に不安がある <ul style="list-style-type: none"> ● 平均希望子ども数2.0人に対し、現状の平均は1.0人である ● 高校生の転出意向が高い <ul style="list-style-type: none"> ● 高校生の進学希望率が高く、進学時に町外に転出してしまう ● 高校生の多くが、将来にわたって豊浦町に住むつもりはないと思っている

機会	<p>1. グローバル化の進展</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海外からの各種需要拡大 ● 海外観光客の増加(東アジア⇒東南アジア) ● 新千歳空港の海外枠拡大 <p>2. 環境問題への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 再生可能エネルギーへの需要拡大 ● 送配電分離への転換 <p>3. 求められる食の安全と安心</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国内産食品のニーズ向上 ● 北海道ブランド ● 地産地消の需要拡大 <p>4. 少子高齢化社会の到来</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大都市圏から地方部への回帰 ● 高齢者の健康増進(社会残留) ● 東海大学札幌校の動向 ● 高齢者支援のニーズ拡大 <p>5. 価値観やライフスタイルの変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 雇用形態の多様化 ● 女性の社会進出の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て支援のニーズ拡大 ● ニッチニーズ(生活、嗜好)の拡大 ● エコライフ、環境・資源配慮型消費への転換 ● 高付加価値商品の需要拡大 ● 生活様式の欧米化 ● ツアー観光から個人観光(FIT化)への移行 ● 体験型旅行の需要拡大 <p>6. 高度情報化と技術革新の進展</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ICT・テレワークの推進 ● 交通インフラの整備 ● SNS等を用いた情報伝達スピードの向上 ● 各種手続き等の電子化 ● トレーサビリティの実用化 <p>7. 社会経済システムの変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ネット販売の需要拡大 ● 海外資本の投資拡大 ● 公共サービスの民営化、PFI・PPP ● 北海道新幹線開業 ● 道央自動車道延伸 ● 広域連携による行政運営の拡大
脅威	<p>1. グローバル化の進展</p> <p>2. 環境問題への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 温暖化による第1次産業における収穫物の変化 ● 石油燃料価格の変動 ● 電力不足への不安 ● エネルギー危機の懸念 <p>3. 求められる食の安全と安心</p> <ul style="list-style-type: none"> ● TPP <p>4. 少子高齢化社会の到来</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 出生率減少 ● 大都市圏への人口流入 ● 生産年齢人口の減少 ● 買物難民の増加 ● 社会保障制度への不安 <p>5. 価値観やライフスタイルの変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 晩婚化 ● 晩産化 <p>6. 高度情報化と技術革新の進展</p>	<p>7. 社会経済システムの変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 景気変動 ● 円高・円安 ● 製造企業の空洞化 ● 国から地方への交付金の減少 ● 消費税増税 ● 地方創生に伴う自治体間競争の激化 ● ウインザーホテル洞爺湖の動向 ● 大規模災害の発生 ● 国内市場の縮小 ● 企業体力の低下

